あいのその　2023年9月号

「実に、神の御心は、あなたがたが聖なる者となることです。」

（テサロニケの信徒への手紙Ⅰ　4章3節）

愛の園保育園　042-325-1045

この手紙が送られたテサロニケという町は、多くの人が行き交う賑やかな都会である反面、道徳的には退廃した歓楽の町でもありました。そこで指導者パウロは教会の人々に、様々な環境や状況に惑わされず、神に喜ばれる生活をするようにと勧めます。それを具体的に述べたのがこの聖句です。「聖なる者」とか「聖なる生活」というのは、聖書の中に何度か登場する言葉であり、神を信じる者のあるべき姿、為すべき行いを指します。しかし、そんなふうに言われると私たちは、何か息がつまるような堅苦しい生活をイメージしてしまうかもしれません。そして、とてもそのような者にはなれないと思うかもしれません。

たとえば、クリスチャンはお酒を飲んじゃいけないし煙草も吸っちゃいけない、と思われる方が、特にクリスチャン以外の方の中にたまにおられます。しかし聖書のどこにも、禁酒や禁煙を教えている箇所はありません。教会でもそのように教えるということは特にありません。それどころかイエス・キリスト自身、煙草はないにせよ、、大酒飲みで大食漢だと敵対者から批判されたことがあるくらいです。そう考えると、世間一般的に、漠然と“クリスチャンは清廉潔白”といった思い込みがあると言えるのではないでしょうか。

しかし聖書が語る「聖なる」とは、「(神が）特別に選んで分ける」という意味であり、さらにこれは能動態ではなく受動態の言葉です。つまり私たちが自分でそうなろうと思ってなるものではなくて、そうなっていく、ということです。私たちは、自分の力で清廉潔白な者になろうとすれば、それは重荷となって、結局はなれないで終わるでしょう。しかし、私たち自身ではなく神が、私たちが聖なる者となることができるようにしてくださっているのだ、ということをこの言葉は教えているのです。つまり「聖なる者」「聖なる生活」それらは私たちにとって、努力目標やゴールではありません。あくまでも始まりに過ぎないのです。すでにあなたはそうなのだ、神によってそうされているのだ、だからそれを信じて、神に従って生きなさい、それこそが神の御心なのだ、聖書はそのように語りかけています。だから私たちは、本当に聖なる者として、神の御心に応えて歩み出すことができるのです。

（牧師　西脇　正之）